

祝・成人の日



また、新成人の主張として、大久保誠さん、古味恵さんの2名が今後に向けての前向きな決意を述べられました。(発表内容は、それぞれ次のとおりです。)

その後、合併した新町の成人の門出を記念し、「吾北清流大鼓」も披露され、勇壮な演奏に会場から大きな拍手が送られました。

記念撮影後は、新成人は、近況を話したり、写真を撮りあったりして成人の日を迎えた喜びを分かち合っていました。

企業派遣の 研修を受けて



大久保 誠

「一人のお客様の喜びのために誠実を尽くし、一人のお客様の生活のために利害を忘れる。その人間としての美しさをこそ、私たち、サニーマー卜個展経営の姿とします。」

このテーマを掲げ、毎朝、朝礼時に全員で斉唱し、お客

様に対して、合掌することから株式会社サニーマー卜の一日が始まります。と言っても、私はサニーマー卜の社員ではありません。いの町役場に勤務する公務員です。

私は、二週間の間だけですが、サニーマー卜北御座流通センターにて、企業派遣の研修を受けたことがあり、研修中、毎朝斉唱していたので知っているのです。そして、この言葉が研修中で一番心に残っていることでもあります。

研修中、いろいろな不安等がありました。研修が始まって、何日かたつと、職場の人たちの仕事ぶりに、自分も引張られて、最初の緊張もいつの間にかに溶けていきました。それほどまでに職員さんの、自分たちの仕事にかける執念・気力は強く、それでいて、一人のお客様の為に利害を忘れるという姿勢は、自分たちにも共通しているところであり、見習わねばと思われました。その中で最も心を打たれた人が、自分が配属されていた課でいろいろと仕事等を教えていただいた有光さんという方です。有光さんは50代と言

う年齢にも関わらず、常に現場に出て職務にあたっている人で、研修中はほとんど有光さんと一緒に行動しました。いろいろな店舗を回ったり、サニーマー卜が企画・運営している水泳教室の手伝いをしたりと、どちらかと言えばデスクワークとは少し離れた仕事でした。しかし、年を感じさせないパワーで常に自分から進んで行動していました。

このお年でなんと働き者なのだらうかと感心させられる毎日でした。ある日、サニーマー卜水泳教室も終わりを迎え、生徒児童、保護者、学校関係者を交え、ささやかな終業式を行うことになっていました。その時、サニーマー卜の方も役員の方が出席するといふことになっていたので、急な用事のため突然行けなくなってしまうという知らせが、式直前に入ってきたそうです。すると、有光さんは形相を変え、自分の失態のように思い詰めた顔をして会場に直行しました。車の中で有光さんは、

「たとえ回避できないような事情があつたとしても、後から言い訳したところでお客への信頼を裏切るようになってしまつ事には代わりはない。そのようなことは絶対にあつてはならない。遅刻しても、他の者が行つてもいいから、とにかく参加して、謝つて、謝つて理解して頂くしかない。そして、この失敗から次に生かせる努力をしなければならぬし、それをお客様に見てもらふ必要がある。そこまですらないと、一度失つた信用というものは、なかなか取り戻すことはできない。」と教えてくれました。会場に着くと有光さんは、サニーマー卜全体の責任として、そして、その代表として謝り続けていました。自分のせいではなくとも、自分自身のことのように考え、反省し、謝り続ける姿を見ていると、自然と自分も後について謝罪してしました。有光さんには、そういったカリスマ性、そして本当の父親のような感じさえ持つ人でした。私には、物心付いた時から父はあらず、父親というものをあまり知りません。ですが、もし、自分に父親がいたとしたら、このような感

1月3日 すこやかセンター伊野で成人式が開催され、20歳を迎えた305人(対象者344人)が成人の仲間入りをしました。式典では、来賓の祝辞を受け、楠本優成さんが、「私たちは社会人として義務と責任を自覚し、個人個人が自己完成に努めなければなりません。また、私自身社会の厳しさ、仕事への責任を感じながら日々努力をしています。これからは地域の繁栄、郷土の発展のため、力を尽くしたいと思っております。」と謝辞を述べられました。

じだったのだろうか、ふと思わされました。このようなすばらしい人に出会えたこと、経験できたことは一生忘れな

いと思います。この研修を通して感じたことは、形式や民間・公務の違いはあれど誰かのためにという概念は私たち公務員と変わらないし、同じ働く仲間がこんなにも頑張っている。もしかしたら、私たち以上に地域の人たちと結びついている。と思うと自分も頑張らなくては、と思わされます。同じ仲間として、このような研修等によって、互いの良いところ、悪いところを見直したりできる、持ちつ持たれつの関係が続けばと思います。そして、こういった関係は大事にしていきたいです。

「20歳の決意」



古味 恵

まずは、これまで私たちを育て、その成長を見守ってく

ださった両親、学校の先生方、地域の皆さんに心から感謝したいと思います。

今日、このように無事に成人式という節目を迎えられたことを嬉しく思う一方で、自分が成人の仲間入りをしたのだという実感が未だ湧かずにいます。

ですが、これからは成人として、これまで子どもだからと周りから庇護されていた分の責任も自分一人で負わねばならないことを思えば、自然と気持ちが引き締まるように感じます。

振り返れば、この二十年はあつと言う間でした。

去年の今ごろは一年後のことなど漠然としたもので、ただテレビで放送される成人式の様子を何ともなしに眺めていたように思います。そんな自分が、今こうして成人式に臨んでいることに一年という時間の早さを感じずには居られません。

これまで時間が流れるままに日々を過ごしてきた私ですが、この二十一年間に積み重ねてきた思い出はここでは語り切れないほど沢山あり、その

中でも、まず始めに振り返るのは友だちとの思い出です。

保育園や小学校からの友だち、中学校、高校で出来た友だち、二十一年間に沢山の友だちと出会うことが出来たのは何よりもの財産であると思っています。

いつもは唯、他愛もない話をしている、ふざけ合うばかりですが、いざと言う時は互いに手を差し伸べあえる、誰もがそんな貴重な存在です。

友だちというものは、一つの学業の区切りと共に別れというものではありません。私たちが生きていく上、家族とはまた違う、無くてはならない大切なものです。

そして、友だちからは沢山の楽しい思い出と同時に、人を思いやる気持ちなど多くのことを学び得て、経験することが出来ました。

自分が今のように成長することが出来たのには、養ってくれる両親や家族だけでなく、彼女たち沢山の友だちの存在も大きいのだということに改めて実感し、友だちは大切に、彼女たちが必要とするなら直ぐに手を差し伸べてやる、

そうすることの出来る人間に

なることが成人式を迎えた私のまず一つの目標です。

私は今、大学で医療分野の勉強をしています。

医療分野は学ばなくてはならないことが山のようにあり、その勉強に追われる日々が滅入りそうになる一方で、自分が望んだ分野の勉強ができることに確かな充実感があります。

そのことに関しては、自分のやりたいと思ったことに反対することなく、その道に送り出してくれた両親に感謝するばかりです。

今はまだ大学の勉強に追われるばかりで、卒業後の自分の取るべき進路を見定める余裕などありませんが、いずれ社会人として戻ってきた時には、地域や社会に貢献出来る人間となれるように、まずは目の前にある課題をひとつずつ取り除いていくことを目標にします。

そして、これまでの二十一年間は決して無駄な時間ではありませんが、ただ時間に流されるままに過ごしてきた感があるので、まずはこの日を区切りに、一日一日を無

駄に過ごすことのないように気持ちを改めたいと思います。

今、世界だけでなく日本でも連日、悲しく、痛ましい事件が起こっています。親から虐待を受ける子ども、非道なまでの犯罪に巻き込まれ命を奪われる人々、そんな世の中でも、こうして生きていることが出来る自分自身の命を大切にし、自分を取り巻く幸せを不幸だと嘆くことのないように精一杯生きていくことが、今日、成人を迎えるに当たっての何よりも私の決意です。

成人式に参加できなかった対象者の皆様へ

成人式の冊子と、記念品をお渡ししますので、成人式案内状をお持ちのうえ、社会教育課、吾北及び本川教育事務所までお越しください。代理者の場合は、案内状もしくは、現住所、生年月日が確認できるものをお持ちください。

社会教育課

☎893 2012